

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第200版

### 理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

竹取新聞に関する皆様のご意見やご要望をお聞かせください！

ご意見箱



竹取新聞以外のご意見もお待ちしております。お電話やメールでもOK！

050-1744-8823  
info@caguya.co.jp



青色には自園で大切にしていることや成果が、赤色にはリーダーとしての課題。黄色には、その課題に対するアイデアが書き出されました。

## 第20回リーダー研修

### ～学びを自園へ持ち帰る2日間～

分けのルールに沿って意見を整理することで、各園の実践や課題が模造紙にまとめられていきました。

また、今回は発表形式ではなく、各グループの模造紙を自由に見て回る時間が設けられたため、他のグループの視点を写真に収めることができ、より自園に持ち帰りやすい工夫もされていました。同じグループの先生同士で他の語り合う姿も印象的でした。

新たなプログラムを取り入れた背景についてギビングツリーの山下先生にお伺いすると、「研修に毎回参加してくださる先生方もいらっしやるため、内容を少しずつ見直し、より深い学びにつなげて



どのグループも積極的な意見交換が行われていました。

いきなと思っていました。また、研修での取り組みをそのまま自園に持ち帰って実施してもらいたい思いもあります。」と仰います。

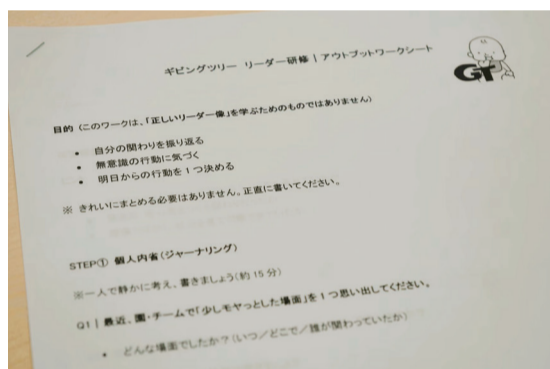
参加者アンケートにはまさにその意図を汲み取った声も反映されており、「同じグループの先生のお話が聞けたことで、どうしていけばよいかの改善策が分かりました。また他グループの内容も可視化されることができたので、自園でもまたやりたいと思いました」「情報共有で終わらず、実践のヒントを得られました」「内省の重要性を感じることに、内省ポイントを知ることができました」といった声が寄せられました。

各園のリーダーの先生方が真剣に保育を語り合う姿が印象的でした。それぞれの園でこのワークがどのように広がっていくのか、今後の実践報告も楽しみです。

(奥山卓史)

保育環境研究所ギビングツリー主催「第20回リーダー研修」が開催され、全国から参加した70名の先生方が、保育現場のリーダーとして「見守る保育 藤森メソッド®」を学ぶ2日間となりました。

初日は、「人権と子ども観」「法人理念が浸透していく研修」「リーダーシップ論」の3つをテーマに講義が行われ、理念と実践をどう結びつけていくのかを考える時間となりました。2日目は、従来のディスカッション中心のプログラムから、講義と参画型ワークを組み合わせた新たなプログラムが実施されました。



自身を振り返る「内省シート」を元にワークが実施されました。

## 第200版までの歩み

本誌は今月で第200版を迎えました。2009年8月の創刊から16年7か月。弊社の設立が2002年ですので、会社の歩みのほとんどを竹取新聞とともに重ねてきたことになりそうです。ここまで歩んできたことができたのは、本誌を手にとってくださった皆様ののおかげです。「いつも読んでいます」というお声に支えられ、長年にわたり発行を続けられていることに、改めて深い感謝の気持ちを感じています。

誌面では、これまで多くのお客様の実践を紹介させていただきました。「実践」と一言で言っても、その背景には先生方の努力や試行錯誤、日々の積み重ねがあります。その大切な歩みを共有させていただけたこと自体が、私たちにとって大きな学びであり、励みでした。16年という年月は、皆様との関わりの積み重ねでもあったと感じています。

私自身も第62版の頃に入社したため、今回改めて第1版から読み返してみました。当初は「営業チーム」「研修チ

ム」「業務改善チーム」など、チームごとの記事が掲載されており、時代ごとの役割や体制の変化を感じました。また、第1版には今も続いている「二円対話」の記事が掲載されており、大切な理念を繋ぎ続けていることに歴史と重みを感じました。

今回の節目を通して、いつも支えてくださる方々の存在の大きさを感じました。今以上に皆様に寄り添い、少しでもお役に立てるような誌面作りをしていきたい、思いを新たにしております。これから皆様とともに歩みを重ねていきましたら幸いです。

(眞田由莉)

【第41版】



創刊当初はA4サイズモノクロ片面印刷でしたが、両面化、カラー化を経て、現在のA3サイズへと形を変えてきました。

【第1版】



カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## お彼岸のぼた餅

もうすぐ春のお彼岸ですね。お彼岸は春と秋にあり、春分の日・秋分の日を中日として前後3日間、計7日間が「お彼岸」にあたります。（今年の春のお彼岸は3月17日～23日まで）春分の日や秋分の日、昼と夜の長さがほぼ同じになる日で、自然のバランスが整う特別な日と考えられ、この日にご先祖様を思い、手を合わせる習わしが生まれたとも言われています。

春のお彼岸には「ぼた餅」を、秋のお彼岸には「おはぎ」をお供えする風習がありますが、この2つは同じもので、春は牡丹（ぼたん）が咲くので「ぼた餅」、秋には萩（はぎ）が咲くため「おはぎ」と、お彼岸の季節に美しく咲く花になぞらえて

るそうです。（地域による違いも多く諸説ありますが…）

また、その丸い形には「円満」や「巡り巡る命」の意味があったり、小豆の赤い色には、昔から悪いものを遠ざける力があると信じられたり、やわらかいお餅と甘いあんこには、「みんなが元気でいられますように」という願いが込められていたりします。

更に、お供えするだけで終わりでなく、手を合わせた後に食べることも大切な意味が。これは「お下がり」をいただくことによって、亡くなった方と同じものを分け合い、気持ちを受け取るためで、『供えること（思いを届けること）』『食べること（思いを受け取って日常に戻る）』がそろうと、供養は完成すると考えられています。

春のお彼岸は、ご先祖様に「ありがとう」を伝える大切な行事。子どもたちも一緒に、命の繋がりや感謝の気持ちを伝える感じる時間を過ごしてみるのもよさそうですね。

（宮前奈々子）



市販のぼた餅もおいしいですが、自分の手でつくってみると、より感謝の気持ちを込めやすかったり、家族でつくることで供養の心を分かち合えたりするよさも。お彼岸という古くからの習わしが、忙しく流れる毎日の節目となり、子孫である私たちの人生や暮らしをより豊かにするきっかけとなったなら、これ以上の先祖供養はないのかもしれないですね！

## 一期一会庵

### 修己治人の実践

「修己治人」という言葉があります。これは自分自身の修養に努めて徳を積み、その徳で人々を感化して世の中を治めることをいいます。また論語の「礼記―大学」に「修身齊家治國平天下」があります。天下を治めるには、まず自分の行いを正しくし、次に家庭をととのえ、次に国家を治め、そして天下を平和になるというものです。

結局は人は、人としてどう生きるかということが大前提になり、その人の姿勢次第でいくらでも周囲の環境が変わっていくということの例えであるように思います。

例えば、日々の小さなことの気づきには反省というものがあります。具体的には日記などを用いて自分の言動や行動を振り返ってみると、色々とあの対応はよかったとか、あの対応はまだ改善できるといった自己の目指すあり方との正対があります。そのうち思いやりや真心で行動して言動を一致させたとき、それができた自分を誇らしく思えます。その逆に、愚痴や文句、他責にしまった言動があったときは残念

な気持ちになります。そのように日々欠かさずに自身のことを修めていくことで、一時の感情に流されたり呑まれたりせず、初心や理念に立ち返って自己を調整していくことができるようになるのだと思います。

また、周囲に同じように修己治人をする人たちがいれば、共に反省して日々を見直していきます。それは毎日ではなくても、週に一度、あるいは月に一度でも行うことで人として成熟し、思いやりややさしさ、また知恵を持ち、助け合い、愛し合う豊かな人間性を磨いていくこともできます。

私がかぐやでいつも救われているのは、一円対話や初心会議があるからです。その日があることで、仲間たちと反省や内省を共有して、道から外れないように人間的成長を目指していこうとすることができそうです。このような場があることで、人は何度もある自己や人間としての徳に立ち返ることができるのです。何歳になっても初心原点を忘れないという努力や精進は、誰がやってくれるものでもなく、常に自分軸を立て自己内省を通して行っていくしかありません。子どもたちが憧れる大人、そしてその環境になれるようにこれからも修己治人を実践していきたいと思えます。（野見山広明）

### 編集後記



全く関係ないですが、蓮根のドクロが可愛いのです。

暖かくなってきました。外を歩くと朗らかな光に照らされ、なんとも幸せな気持ちになってきます。気候のおかげで自然と来年度を楽しみ希望に満ちた心になりやすいように思います。園では卒園式入園式とおめでたい節目の行事が

続きますね。我が家も娘は高校2年、息子は中学3年になります。成長していく子を見続けられる幸せに感謝しつつ、歳を重ねる体にも感謝しつつ（特に老眼が…）皆様と新しい春を迎えられることを楽しみにしています。（眞田海）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

